

# SOE News no.87

ホームページもご覧ください

NPO-SOE.JP

NPO センスオブアース市民による自然共生パンゲア からのお知らせ

SOE 第11回総会開催 4月28日

2013.5

記念講演「共に生きる社会」

東京学芸大学名誉教授・SOE 顧問 佐島群已 先生

「自分は何をしたいのか。自分は何を実現したいのか」

～不明・不確実～

第11回目を迎えたセンスオブアースの総会が、来年の設立10周年、ニュース100号に向け、春爛漫の季節の中、開催されました。

今年度は、SOEが4月から、NPO法に制度化されている2つの事業—環境教育事業とそれを支えていく収益事業の2本立てのNPOに発展し、助成金獲得による予算を持って、取組を力強く発展させる方針が採択されました。



## 《佐島先生による講演》

「格差社会・無縁社会・リスク社会の不安定な社会、生きることに自信を失っている状態。自分は何をしたいのか、自分は何を実現したいのかが不明、不確実。」「自己実現できない状態になると、自己不全感、絶望感に陥る。」「迷惑行為や3.11の震災・原発事故など、他人ごととして捉える現象がみられる。」「『自分は何か』を問い、自己確認する学びのすすめとして、次のような傾向を乗り越える必要がある。①自分は何をするのか、自分はどのようにして自分の願いを実現したいのかが不明確。②友達と一緒に学び合うのが不得意な“社会力”のない子ども。③教師に力量が不足し、努力が足りない。授業がわかるようにする教師の役割、責任を果たしていない問題。」「共に生きる社会の構築—何事も自らの問題として捉え、他者とかかわりながらその問題を解決していく人間。」「ネオ・コミュニティ（共生社会）をつくる努力の例—ビオトープ作りの親の会の例、木化都市づくり（小国町）、震災からの復興の課題に向き合う～釜石市など—自らの命を通したものを愛する。自分が体験したことを通して、奥深い考えを語る。（京大 梅棹忠夫氏）佐島先生もSOEもフィールドを重視している。」



また、総会では、環境教育スタッフの体験から学んでいる学生の発言、社会人となって活躍中の青年教師たちや、熟年社会人の取り組み報告や、日本女子大学の田中先生によるメッセージなど、活発に交流が行われました。



★「プログラム実践に参加して、子どもは苦手だったが、自然を介すると、子どもと楽しく関われることに気付いた。」T.Y

「今、自分と向かい合う」



★「自分の考えは何かを問い直して、自分と向かい合っている。」I.M

★「子どもの環境学習のスタッフをして、子どもと一緒に学ぶことが大切と感じている。」A.E

★「フードマイレージの環境学習で、食べ物を大事にしない日本人が多いのにびっくりしている。学んで、実践していきたい。」I.M

★「今年は1年生を担当。1年生は先生の様子をよく見ている。子どもたちは自分からやりたいことを言う。私が子どもの手本になるんだなと実感している。まず、学校が楽しいところ、安心できる場所にしたい。」M.N



教師2年目の春の思いを語る

★「3月の肥田舜太郎さんの講演に、職場の看護婦さん5人と共に病院からの出張扱いで参加した。戻って、病院内で肥田講演会の報告書を出し、報告会が開かれた。」U.Y

★「児童施設で子どもたちと毎日、関わっている。実践をして、どうしたら、子どもたちを理解できるか、どうすることが子ども達の心に届くのか、悩みながら取り組んでいます。」I.A

★「ここまでよく頑張ってきた。」T.M



子どもは毎年ちがう。

職場の人と講演会へ参加



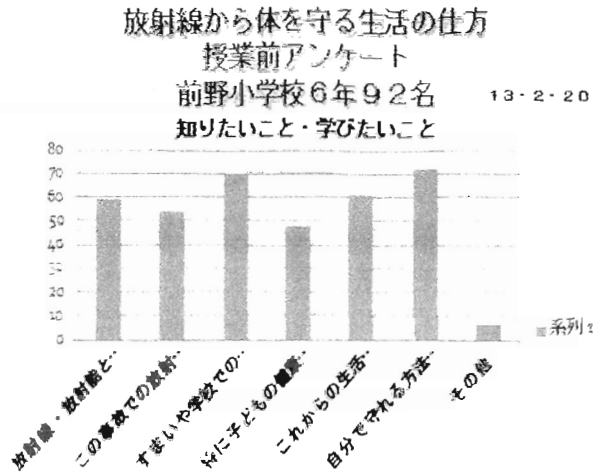
「実践が大切だと言う佐島先生の言葉の通り、社会科の視点でピオトーブを見る視点、教育に生かすことを大切にしている。学生のボランティアは、子どものためであると共に、学生自身のためである。」

# 「放射線による内部被ばくから体を守る生活の仕方」実施

6年生に右記・下記のような事前アンケートをとりました。

放射線から体を守る生活の仕方  
授業前アンケート 前野小学校6年生 13.2.20  
知りたいこと・学びたいこと  
その他自由記述

- 人間以外の動物・植物に影響はあるか、
- 放射線と放射能はどちらが危険か、
- 放射線はなくなることがあるのか、
- 放射線を浴びすぎたら、病気になるのか、
- どこまで影響があるか、
- 原子力発電所の中身はどうなっているか
- 発電所はなくなってしまうのか、



一番多かったのは「自分で守れ

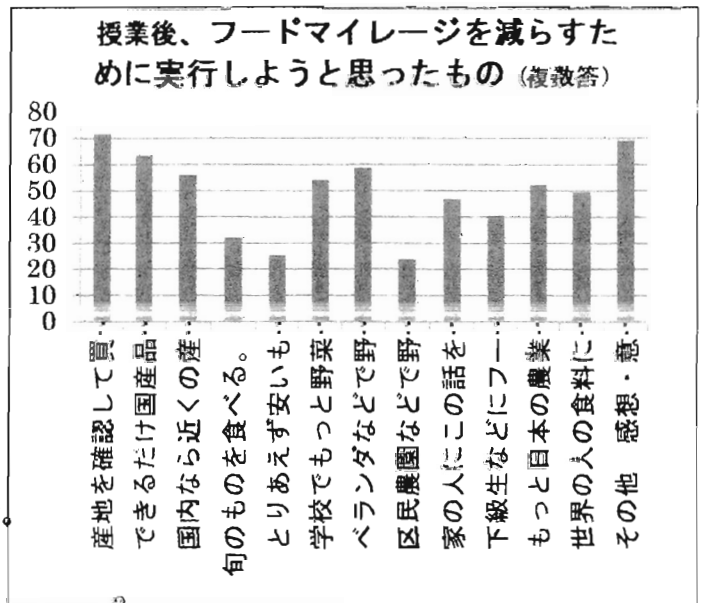
る方法があるなら知りたい。」2番目に「住まいや学校での放射線量を知りたい。」3番目が「放射線について知りたい」です。左上のグラフは、自由記述の知りたいこと・学びたいことです。「人間以外の動物・植物に影響があるか」や「放射線はなくなることがあるのか」「放射線を浴びたら病気になるのか。」など、大人並みの大変率直で鋭い質問が並んでいます。2単位時間の中で、実際に計測器で教室や校庭の放射線を計り、体を守る食生活の仕方などを学びました。今後の自分の努力目標で一番多かったのは、よく運動して体を鍛えていく、二番に発酵食品を食べるでした。真剣に学ぶ姿勢が素晴らしかったです。



## 前野小「食べ物はどこから」ーフードマイレージを学ぶ

5年109人 13/3/12,13,14

感想で「とても楽しく学べた」「フードマイレージのことがよくわかった」「食べ物を残さないようにしたい。」「内容が分かりやすくとても勉強になった。」「地産地消を心がけたい。」など69人もものたくさんの感想が出されたのは驚きです。





# 93年後の森の中で



～いのちの森でのネイチャーゲーム～  
2013年4月20日-21日 明治神宮

4月第3週の週末、毎年恒例のアースデイいのちの森が開催された。

会場の明治神宮西芝地は、周りを覆う森にオオタカなどの希少な動植物が生息するなど、都会にありながら豊かな生物多様性を感じる事の出来る場所である。

そんな明治神宮が誕生したのは、93年前の1920年(大正9年)。100年後を見据えて植えられた木々が、そしてその苗木を全国から届けた人々の想いが現在の森を形作っている。2020年に迎える創建100年の節目に、更に100年後の森の設計図を思い描きたい。これが、いのちの森の目指すものである。

センスオブアースの活動に話を移すと、例年来場者が遊びながら自然と触れ合う活動として、芝地でネイチャーゲームをさせてもらっている。昨年・今年と、自然遊びのテーマは“いのちの森での色あわせ”。芝地・周りの木々にあふれる色々の、小さな小さな一端から、自分の好きな色を見つけていく…

今年はいのちの雨と寒さで、自然をじっくり観察するには辛い状況。それでも、ボランティアのスタッフと身体を動かしたり、子どもたちと屋内で簡単な工作をしたり

と、目一杯のんびり、そして楽しく過ごせた2日間でした。

思うにいのちの森は、なにかを一生懸命するのではなく、その場にいられることを楽しむ場所。穀雨の節気の毎年悩まされる雨は、食べ物を育むだけでなく、そこに集えることの有り難さを感じさせてくれる雨なのかもしれない。

集い続けるなかで次の100年が描かれる…そんなイベントを目指し、センスオブアースでは、また集いたいと思える場所作りに関わっていきたくと考えている。



発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052  
e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp